

金剛寶戒寺便

<https://www.houkaiji.jp>

令和二年四月一日発行 第七十三号

檀信徒の皆さまこんにちは。世間を騒がせているコロナウイルスの影響を全く感じさせない程にウグイスが綺麗な声で鳴いてくれています。閉塞感のある時こそ自然に目を向けていきたいと思います。

四月八日に予定をしておりました講習会はコロナウイルス感染拡大防止のため中止とさせていただきます。

寝ても覚めてもコロナウイルスの話ばかりです。こんな時こそ冷静に受け止めなければいけないと思い、煽られない様に気をつけていたのですが私の認識が甘かった事を認める必要が有るように感じています。島国の日本ではこれまで大規模な伝染病の経験が少ないですが、過去の歴史をみると陸続きのヨーロッパやアジア大陸では感染症による人口減少を何度も経験してきました。その経験から感染症への対応が違ったのかもしれない。

グローバル化という言葉が使われるようになり、教育や経済、人材等ばかりに気を取られていましたが、今回の新型コロナウイルスもグローバル化が引き起こした負の一つと言えると思います。仏教を通して今回のコロナウイルスへの対応と影響を考えてみました。

釈迦族の王子として生まれたお釈迦様はとも物質的に恵まれた生活環境で育ちました。

しかしそこからは心の休まる幸せを見つけることが出来ずに、妻や子ども、自分の地位も全て捨てて二十九才の時に苦を逃れ心のやすらぎを求めるために出家をしました。六年にも及ぶ難行苦行を重ねましたが、どんなに肉体を痛める修行を行っても苦を滅する事が出来ず、最後にたどり着いた覚りが「中道」というものでした。

中道とは「二極の真ん中」という意味でなく、両極端なものの見方を離れバランスの取れた姿を取ることです。今回のコロナウイルスの事で言えば感染拡大防止の為の自粛は極端ではなく、生活用品などの買い占めなどが極端に当たります。どちらも各自が行う判断ですが、不要不急の外出などは控えながらも不必要な買い物は世相を余計に混乱させてしまう。というのがお釈迦様の言う中道の姿勢に当たると思います。

また、お釈迦様のもう一つの大切な覚りに「縁起の法則」があります。全ての物事は単独では成り立たず、因（原因）に多くの「縁」が関係して果（結果）が成立をしているという教えです。私たちは普通、縁が有るといふと顔見知りや知り合いなど、多少なりとも面識が有る人たちを想像しますが、今回の新型コロナウイルスを経験して痛感したのは、全くの縁の無いとも思える他の国の人々から大きな影響を受けている事を知りました。それは人の往来だけでなく資材などの物流にも

関係してきます。逆を考えれば、目には見えない「お蔭様」に支えられている事につくづく気づかされました。

中止のお知らせ

四月五日 千人参り

四月八日 講習会

四月八日 仏教会主催のお花まつり

四月十三日 お接待

四月三十日 当山主催のお花まつり

五月は状況が分かりませんので希望も込め、四月に予定していた講習会をスライドさせる形で予定します。中止になる可能性もありますのでホームページかフェイスブックで予定のご確認をお願い致します。

五月八日（金曜日）十四時から

演題「お釈迦様の悩み解決方法」

場所 金剛宝戒寺本堂に於いて

住職がお話をさせて頂きます

地球上の歴史の中で力の弱い人類が生き残り、恐竜などが滅びていったのは、人間が環境を柔軟に受け入れてきたことと、団結力を持つて集団で行動してきたからではないでしょうか？集いを禁止され精神的にも不安定になりがちですが、これまでの自分自身を見直す時間に充てることが出来るかもしれません。また電話やSNSなどでコミュニケーションを取る事も出来ます。気持ちだけは明るく、一日も早い終息を皆で願います。

合掌